

ぼくのノオト

③6 蝶に乗るひと

パタパタと風を送ると、小児麻痺で動けない彼はいつも笑う。そして耳元で話しかけると、彼も何かを話してくれる。

そんな彼が、寝たふりをすることがある。体位交換から始まり、シーツやおむつ交換、そして経管栄養。幼い時から続けられてきた、慌ただしい朝のルーチン。そんな時に彼が何を言おうとも、じっくり聞こうとしてくれる人はいない。

誰しも心に余裕がなくなったとき、自分のものさしで、人をみてしまうことがある。だから彼は、目をつぶって時を過ぐす。本当はもっと話をしたいのに、楽しく一緒に生きていたいのに。

ALS(筋萎縮性側索硬化症)の進行で他界した折笠美秋は、わずかに動く唇と瞬きを妻に読み取ってもらい、句を詠んだ。

「ひかり野へ君なら蝶に乗れるだろう」



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操